

ご挨拶



皆様、いつも川崎市北部地域療育センターの運営にご理解とご協力を賜り本当にありがとうございます。当センターの所長をつとめます武井でございます。

昨年度で指定管理期間の一期目（5年間）を終え、今年度より、二期目のスタートとなります。これまでの手ごたえと振り返りをもとに新たな始動の年と考えております。

昨今のコロナ禍の状況のもと、皆様におかれましては大きな不安の中で過ごされていることと存じます。私たちも、皆様の不安に少しでも寄り添うべく、感染拡大防止に最大の注意を払いつつ運営を継続しているところでございます。全世界的に見ても、日々、新規感染者が増加の傾向を報告される事態の中、ソーシャルディスタンスなど、密を避けることが叫ばれ、新しい生活様式が求められています。当然、今この時を乗り越える為に必要な対応ですが、その反面、密は子どもの発育や社会の成長にとって不可欠なものであることを忘れてはいけません。

新型コロナウイルスは、私たちの人類の身体のみでなく、その社会性をも破壊しようとしています。幼児期の愛着形成は社会を形作る上で土台であり骨格です。そして幼児期の愛着形成はリモートで代替できるものではありません。センターは二期目の運営に向けて『子どもたちにとって愛される場所であること』『ご家族にとって安心につながる場所であること』『私たち職員にとって誇れる職場であること』を掲げています。

そして、子どもを中心に、センターの全職種の経験と知恵を集結する集学的療育を新たに定義して、職種を問わず全職員で力を合わせる療育を推進していきます。

困難な状況だからこそ、子どもたちが夢と希望をもって育つことができるように、ご家族、地域の関係機関の皆様と力を合わせ、集学的療育を推進していきたいと考えます。

今後ともご指導とご協力をいただきますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

通園部

通園部では、集団生活の中で基本的な生活習慣の確立、年齢や発達段階に合わせた生活経験、社会性の向上、コミュニケーションスキルの向上などお子さんの発達上のニーズに合わせた発達支援をしています。また、季節にあわせた遊びや行事も行い、その季節にしか体験できない様々な事にチャレンジしています。親子通園では保護者の皆様とお子さんの成長を一緒に確認し喜びあえるよう、寄り添いつつ支援を進めています。

心理部

お子さんの心理評価や保護者の方からの話を伺いながら、今のお子さんの様子を確認し、保護者の方と一緒にお子さんを理解しながら、日々の関わりについて具体的な手だてを見つけていきます。必要に応じて、お子さんの個別指導や保護者の方との個別面談、所属機関との連携などの支援を行います。

総務部

総務は、最初にみなさまをお迎える玄関の受付や、通園で通われるみなさんの給食メニューを考える栄養士、館内を気持ちよく使用いただくための設備管理など、いつもこの療育センターを訪れてくださる皆様と近いところでお会いしております。気持ちよく療育センターをご利用いただけるように日々みなさまのご来所をお待ちいたしております！

地域支援部

ソーシャルワーカーはお子様の育ちの心配事についての相談を受け付ける「相談の窓口」です。生活のこと、制度のこと、どこに聞いたらいいか迷ったらソーシャルワーカーへご相談ください。お子さまが安心して遊べる場所として
第1、3土曜日には「ほくほく広場」
第2、4金曜日には「大きな樹」
（片平こども文化センター地域訓練室）を開催しています。ぜひ遊びに来てください。

リハビリテーション部

作業療法（OT）は遊びながら自分の体・手先の使い方を練習したり、身の回りの動作の練習をしたりします。また、食べ方や偏食の相談も受けています。理学療法（PT）では、日常生活に必要な運動機能の獲得・維持・改善を図るとともに、補装具や車いすなどの作製に関わり社会参加の支援を行っています。言語聴覚士（ST）は、ことば・コミュニケーション・きこえ・食べることのご相談をお受けし、アドバイスや必要に応じた支援を行います。

診療所

診療所の診療科は、小児科・小児神経科・児童精神科・リハビリテーション科・耳鼻科があります。医師の診察では、発達の課題があり幼児期の子育てに不安を感じている保護者の方や、言葉や行動上の問題が表面化して対応の仕方がわからないと悩んでいる保護者の方の相談が多くあります。そのほかに難聴のあるお子さんのフォローや補聴器の作成、車いすや補装具や作成等を支援しています。ご家族にも安心が提供できるよう一緒に発達の支援について考えていきたいと思っております。お気軽にご相談下さい。